

どんな時でも上を向かせてくれる、 花火の力で希望を紡ぎたい

2021年11月、4週にわたり秋田市内4カ所で華やかな花火が打ち上がりました。仕掛けたのは佐藤勇人さんが代表を務める「輝け！僕らの秋田ゆめ花火プロジェクト」。21年5月に発足し、わずか半年で成し遂げたコロナ禍での花火打ち上げについて、思いを伺いました。

小学生から高校生までを対象とする塾講師の佐藤勇人さんは、日常的に子どもたちと関わっている中、新型コロナウイルスの影響で学校行事が中止させられたことに胸をいためた。

「僕たち大人が当たり前に経験してきた課外活動や修学旅行、友人たちとお祭りに行くことが、コロナ禍では気軽にできなくなりました。子どもの頃の楽しい思い出は大人になった僕たちの糧になる。その機会が奪われることがとても残念で悔しいです」

何とかしたい、そう考えてたどり着いたのが「花火を上げよう」というアイデアでした。以前から花火の写真を撮るのが趣味だった佐藤さんには、花火会社の人たちとの関わりがありました。コロナ禍で花火大会の自粛が重なった際に「利益は例年の8割減だ」という嘆きを聞き、「このままでは花火会社がなくなってしまう」と危機感を覚えたといいます。「子どもたちに花火で少しでも希望を」「花火を存続させたい」という二つの情熱が重なり、「輝け！僕らの秋田ゆめ花火プロジェクト」の立ち上げに至りました。

佐藤さんが勤める塾では、ちょうどその春から秋田で新生活を始めた大学生たちがアルバイトを始める時期でした。そこで感じたのは、コロナ禍で熱意の行き場を失っているのは子どもたちだけではなく、大学生も同じだということ。新天地で「何かしたい」と悶々としている大学生たちに、佐藤さんはプロジェクトの参加を持ち掛け30人ほどがメンバーに。

そこから活動がスタートしました。

イベントを企画した経験のなかった佐藤さんだったが周りは手を差し伸べてくれる人で溢れていました。「まずはここに話を通すといよいよ「打ち上げの許可はあそこで取るんだよ」など、具体的なアドバイスを方々からいただいた。そして、大学生たちの活躍も目覚ましく、「1年前まで高校生だったとは思えないほど、積極的に頼もしく企業協賛依頼の電話をしてくれました。彼らの頑張りのおかげで、協賛いただけた企業は50社近くにのぼります」。

さらに地域住民からの協力も大きく「秋田市内のスーパーなど70カ所に設置した花火型の募金箱は、ほとんどがいっぱいになるほど。集まったお金を前に、僕たちだけじゃなく、それ以上に地域の企業や住民の皆さんが花火を心待ちにしているんだと身が引き締まる思いでした」

そうして11月、いよいよ打ち上げの時。4週にわたり、秋田市内の4地域で花火打ち上げとなりました。コロナ禍ということもあり、人が密集しないよう基本的に打ち上げ場所は非公開でしたが、打ち上げ地域の小中学校には事前に通知をして、子どもたちからメッセージを募集しました。「どれも心を打たれるメッセージばかりで胸が熱くなりました。子どもたちの思いが夜空で咲いてくれることを願って、メッセージは花火玉に貼り付けて夜空に打ち上げました」。市内では難しいとされていた10号玉の打ち上げも実現し、プロ

輝け！僕らの秋田ゆめ花火プロジェクト
代表

佐藤 勇人さん

【プロフィール】
 秋田市河辺に生まれ育つ。秋田県立秋田南高校、岩手大学卒業。
 大学卒業後帰郷し、秋田市内で塾講師を務める。2021年に「輝け！僕らの秋田ゆめ花火プロジェクト」を設立、同代表

ジェクトは成功裏に終わりました。

今回のプロジェクトを振り返り、「全ては周りの人たちのおかげで実現できました。本当に感謝しています。この一年、多くの人に助けられました。」

花火プロジェクトは一旦終わりましたが、次はまた違う「ワクワク」を皆さんにお届けしたいと考えています」と目を輝かせる佐藤さん。

花火の魅力は、「花火って、どんな時でも上を見させてくれるじゃないですか。落ち込んでいても、不安でいっぱいでも、花火が上がればみんな上を見る。花火には、僕たちを前向きにさせてくれるという魅力があると思うんです。「コロナ禍で先が見えない不安な気持ち、何もできないもどかしい気持ち、そんな中でも花火が上がって上を見て、希望を持ち続けたいです」

